

# AN7173K使用ステレオパワーアンプキット

## 使用上のご注意

### ■使用方法■

このキットは利得が50dB以上あり、非常にノイズの影響を受けやすいです。

利得50dBは電圧比に換算すると300倍以上あり、ノイズが10mV程度あると出力には3Vものノイズが乗る事になります。ノイズが混入する場合は下記の方法をお試してください。

#### ●電源端子には十分に安定していてノイズの少ない電源を接続する。

スイッチングレギュレータを使用した電源（弊社ACアダプタなど）はスイッチングノイズが混入する場合があります。十分に整流・平滑されたトランス式のドロップパーレギュレータ使用の電源や、単一乾電池などの容量の大きな電池（単一×8本）、あるいは車載用バッテリーなどをお使いください。

最大音量を得る為の電源容量は12Vの場合5A程度必要です。電流容量が少ないと「プッ、プッ」と言う音がして信号を増幅できません。

#### ●入力端子にはインピーダンスの低い信号源を接続する。

入力端子に接続する信号源には、ドライブ能力が十分にある機器をご使用ください。

MP3プレイヤーのヘッドホン出力端子や、プリアンプ、バッファアンプからの出力などが適しています。ダイナミックマイクなどをそのまま接続するとノイズ混入の原因となります。

#### ●キットの入力端子にボリュームを接続しない。

入力端子に接続した機器の方のボリュームで音量を調整してください。

ボリュームを接続する必要がある場合は、なるべく抵抗値の低いものを選んでください。500Ω～5kΩぐらいの値から選ぶと比較的ノイズが少ないです。

500kΩなど高抵抗のボリュームを接続するとノイズの影響を受け、最大音量以外では信号がノイズに埋まってしまい聴き取れなくなる事があります。

また、100Ω程度のボリュームでは接続する機器によっては誤動作する場合があります。

極力ボリュームは接続せずに、前段の回路（接続する機器）で音量を調節する事をお勧めいたします。

#### ●入力にはシールド線を使用する。

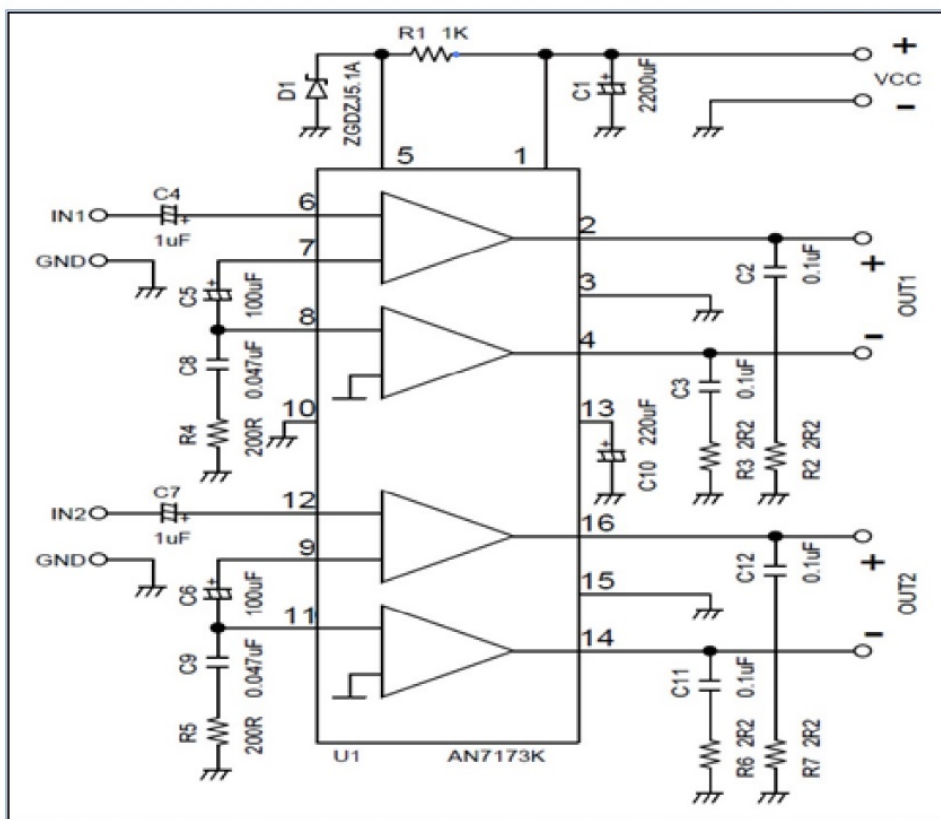
入力端子までの配線にはシールド線を使用し、最短距離で配線してください。

#### ●金属ケースに入れてケースはGNDに接続する。

電磁誘導、静電誘導から保護する事で、蛍光灯やその他の外来ノイズの影響を受けにくくなります。

## ■添付説明書回路図の誤りにつきまして■

添付説明書の回路図に誤りがありました。正しくは下記となります。



## ■基板パターンにつきまして■

このキットに使用しているAN7173Kですが、世に出回っているデータシートには数種類あり、そのいずれもがブロックダイアグラム、回路図、基板パターンの整合性が取れていません。

しかしながら、このICは既に廃品種となっていてメーカーに正誤を確認できません。

**弊社としましては各回路を実験の上で基板パターンを決定し、このまま改造する事無く正しい動作をする事を確認いたしております。**

ちなみに、現在メーカーからダウンロードできるデータシートも回路図と基板パターンの整合性は取れておりません。 [AN7173K \(panasonic.com\)](http://panasonic.com)

(上記メーカーホームページのデータは予告なく削除される可能性があります)

このデータシートの基板図は裏面表示となりますので、AN7173Kは右端が1番ピンになります。

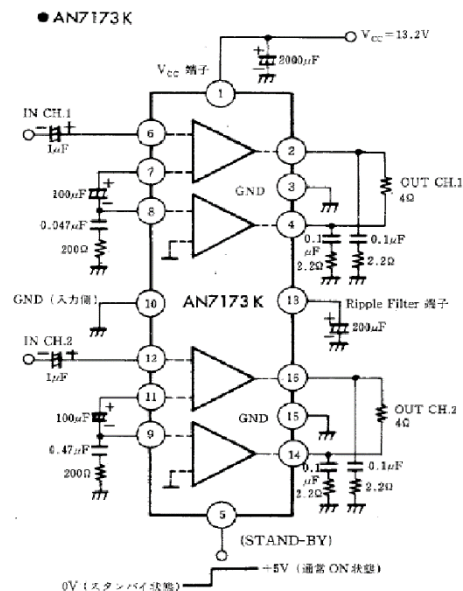
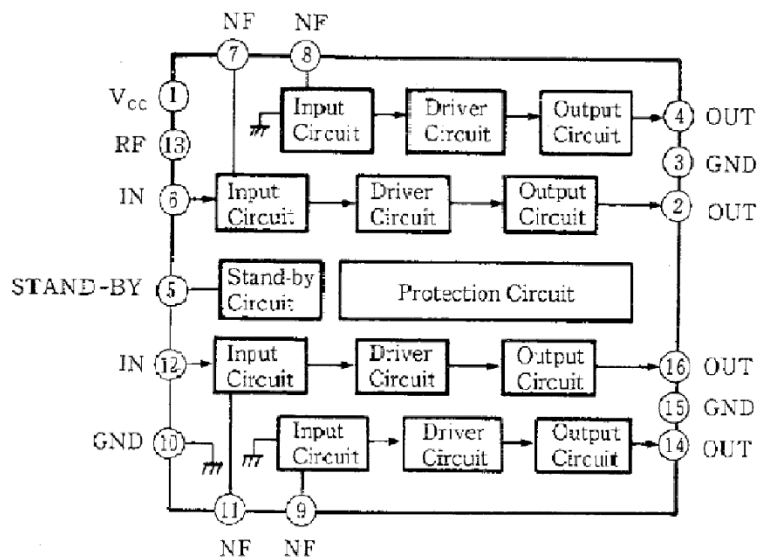
AN7171NKとAN7173KはSTAND-BY端子の設定が異なるだけで同じデータです。

【3】【4】 ページは世の中に紹介されている異なるデータシートの回路図通りにキットを改造する方法です。改造はお客様のご判断でおこなってください。(改造しなくても問題はございません)

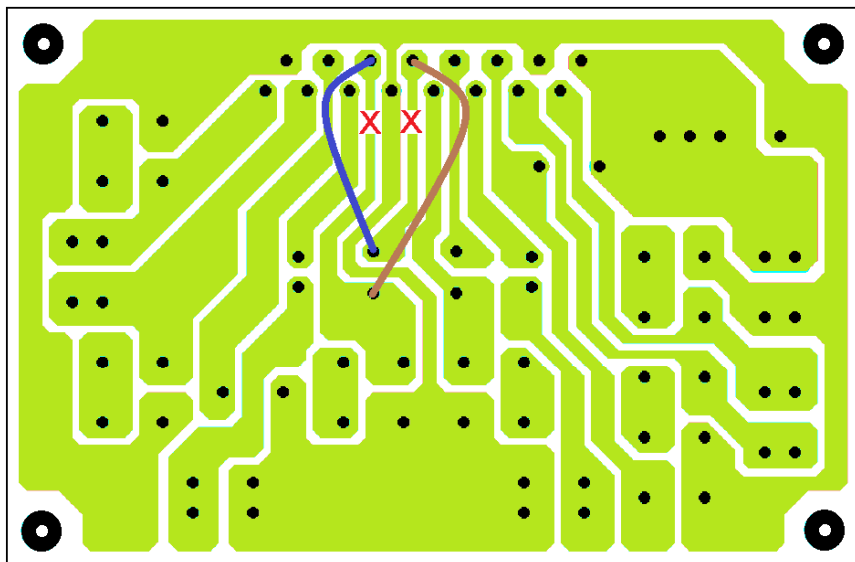
パターンカットはカットする部分の両端にカッターナイフで深く傷を付けた後に、熱したはんだ鋏(こて)でその部分を熱してから鋏の先端で擦る(こする)ように削除してください。

改造は、怪我をしないように十分注意をして作業してください。

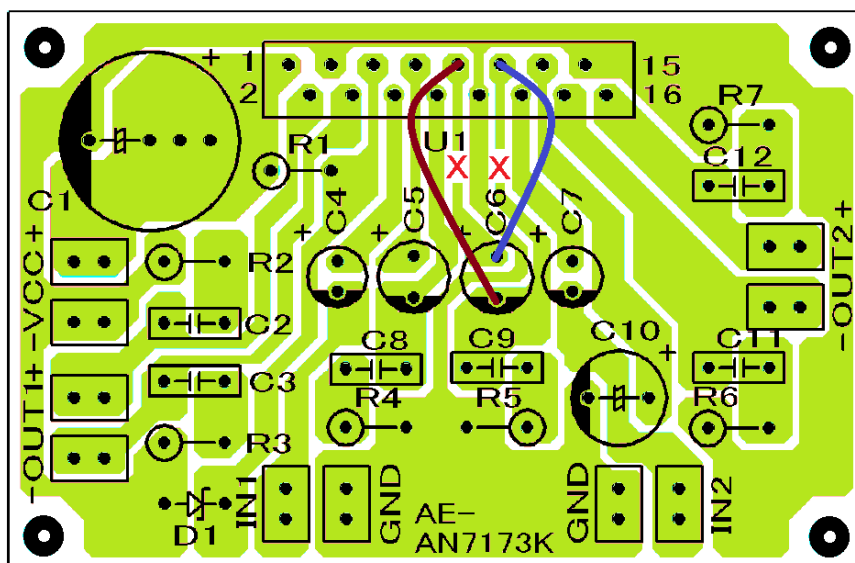
## ■改造例 1 ■



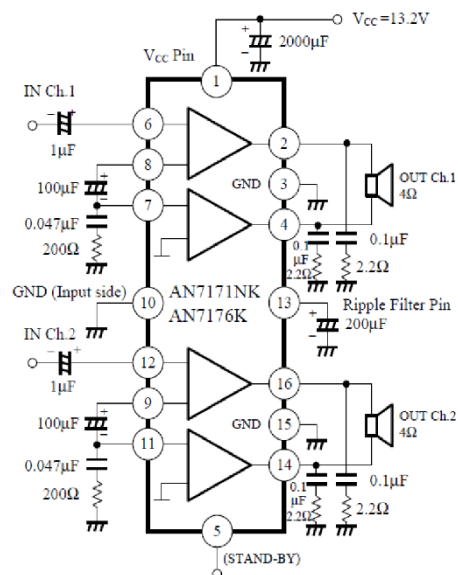
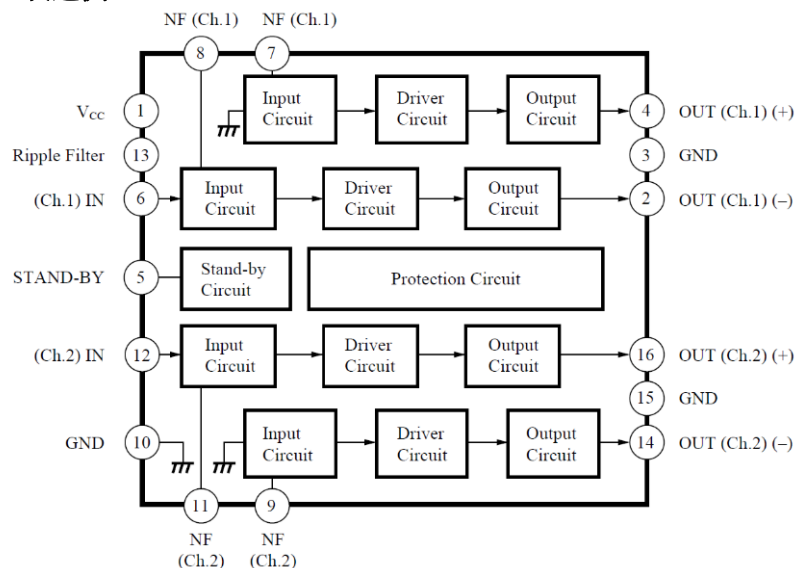
- ・基板裏面図（赤の×がパターンカット部分。適宜リード線などでジャンパーする）



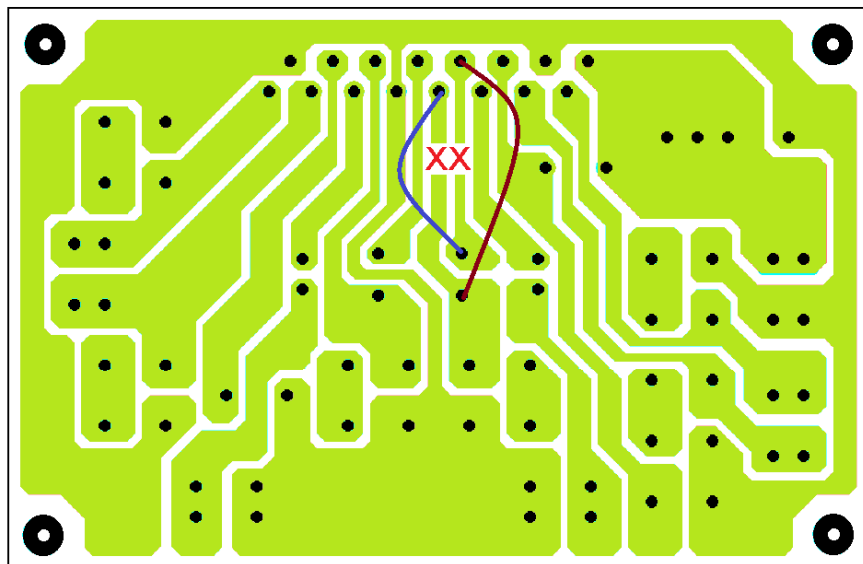
- ・基板表面図（参考）



## ■改造例 2 ■



・基板裏面図（赤の×がパターンカット部分。適宜リード線などでジャンパーする）



・基板表面図（参考）

